

[担当教員]

槻橋修(准教授) 松本猛(安井建築設計事務所) 鄭弼溶(アクセス都市設計)

[Teaching Assistant]

山口沙礼(A72) 宇野耀士(A72) 長谷川晶穂(A72)

### ■課題概要

現代都市に暮らす人々にとって、子供を産み育てることは様々な課題がある。要因としては核家族化による地縁の希薄化、女性の社会進出による共働き夫婦の増加、単親世帯の増加などが挙げられる。子育ての負担が親に集中することが、都市でのライフスタイルとの間でストレスを生み、育児ノイローゼや幼児虐待といった招かれざる事態の遠因ともなっている。

従来より社会における「発達保障」の場として児童福祉施設は整備されてきているが、現代のような家族観、自然観が多様化する時代において、都市は子供達に、また子供を育てる親たちに、どのような場所を提供すればよいだろうか。本課題では以下に挙げる3つの方向性からひとつを選択し、子供のための空間、都市における福祉のあり方について考えてもらいたい。

- (1) 次世代をにう児童達が、健やかに育つための支援環境として、自由に利用できる施設。
- (2) 子育てに関わる様々な人が自由に集まり、交流するための施設。
- (3) 乳幼児の発達保障の場、生活空間を提供する施設。

3つの施設が、交差点を中心に子育てスクエアとして一体的な空間をつくるように、それぞれが尊重すべき共通のデザインの方針(デザインコード)を設定することが望ましい。

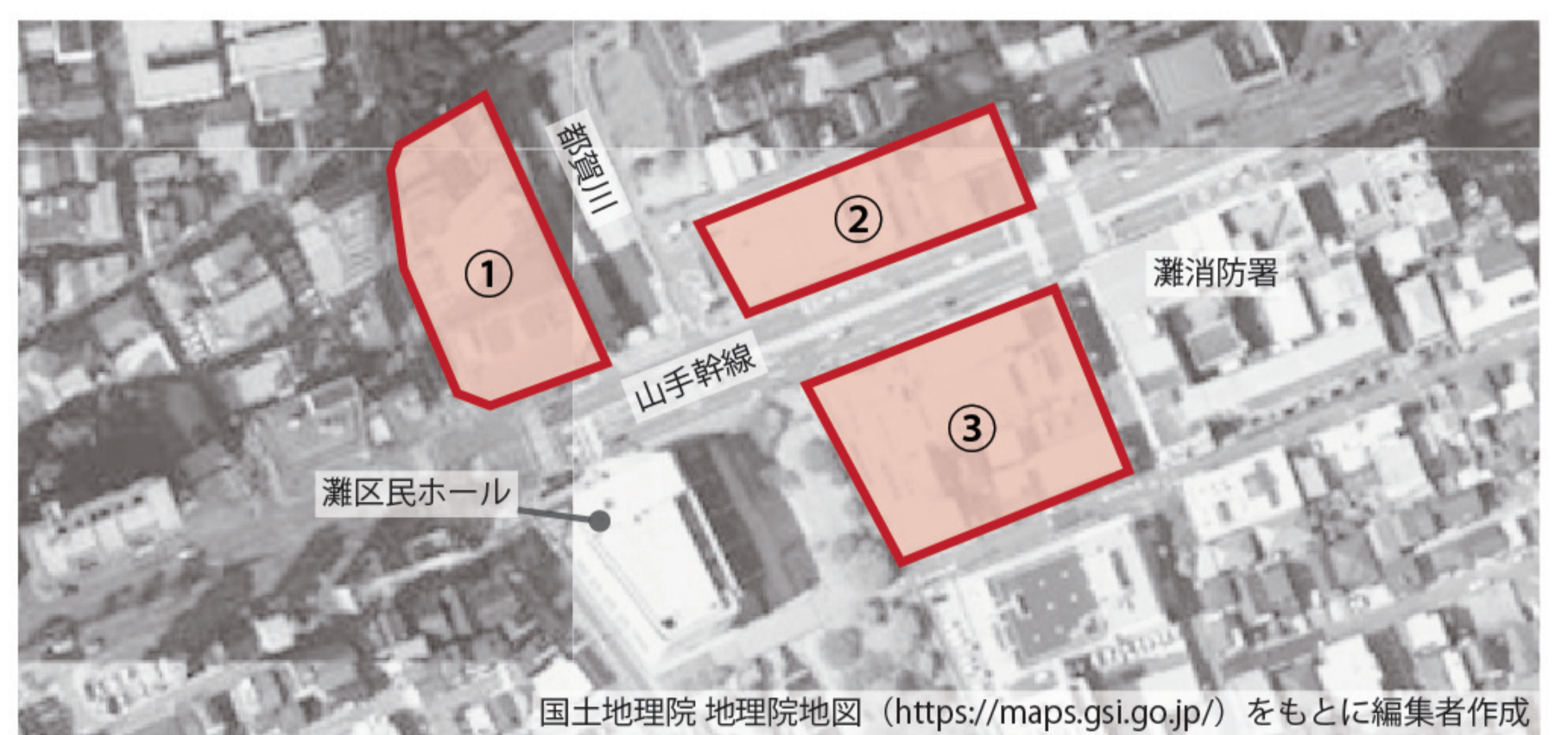
### ■敷地

(1) 下図に示すような、灘区都賀川沿いの敷地を想定する。

- ・「児童館」敷地①約 2030 m<sup>2</sup>=東西 30m×南北 70m(変形あり)
  - ・「子育てカフェ」敷地②約 1550 m<sup>2</sup>=東西 62m×南北 25m
  - ・「保育所」敷地③約 3100 m<sup>2</sup>=東西 62m×南北 50m
  - ・用途地域等(近隣商業地域 / 建蔽率 80%, 容積率 400%, 防火地域)
- (2) 河川公園に隣接する敷地で、周辺は住宅地。

### ■建物概要

- ・「児童館」: 延床面積 1000 m<sup>2</sup>前後。構造、階数は自由とする。
- ・「子育てカフェ」: 延床面積 800 m<sup>2</sup>前後。構造、階数は自由とする。
- ・「保育所」: 延床面積 1000 m<sup>2</sup>前後。RC造、鉄骨造、または、木造(準耐火建築物)。階数は自由とする。



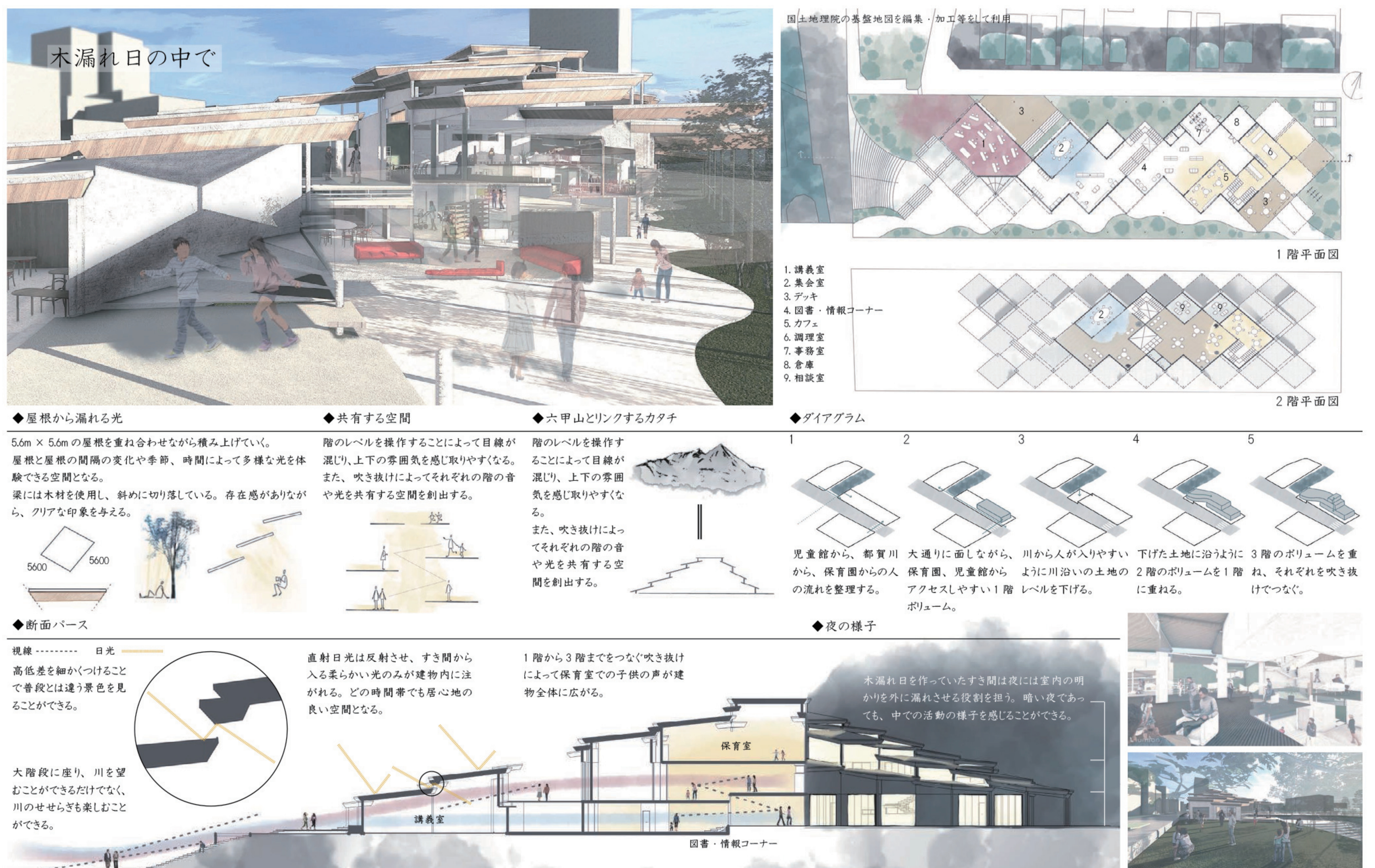
国土地理院 地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに編集者作成

課題敷地

## 木漏れ日の中で

赤田百香

仕事帰りの親や保育園、児童館の帰りに立ち寄り、様々な人と交流が進む空間を形成する。また、レベルの異なる床や吹き抜けを小さな屋根で覆うことによって、異なる活動をしている人たち、それぞれの雰囲気が通う空間を創出する。









# 回る、流れる

上田ゆき乃

都賀川に面したこの敷地に人々が集まる児童館を設計する。それぞれの機能を持った中庭を円で囲み、その円を切ったりねじったりすることで一体感を持たせ、川のような流れをつくる。また児童だけでなく、周辺を訪れる人たちも商店街から寄り道したり川辺に降りたりと、地域に開き、自然を楽しむ空間を提案する。



**コンセプト**  
都賀川に面したこの敷地に人々が集まる児童館を設計する。それぞれの機能を持った中庭を円で囲み、その円同士を連ねたり、切ったりすることで、敷地に一体感を生み、川のような流れを感じる空間をつくる。

**敷地**  
都賀川の西側にあり、川に対して開いている。また南側の山手幹線や、西側の水道筋商店街など、東西の流れを感じる場所である。

**人**  
駅や商店など多くの人が利用する場所であるため、年代や性別もさまざまである。山手幹線に面しているため、南側はただ通行している人が多い。北側に行くほど、スーパーや水道筋商店街の利用など、目的を持った人が多い。桜の時期は川辺でお花見をする人も多い。

**ダイアグラム**

庭と役割を設定する

庭を円で囲む

3つをつなげる

**操作**

例①ある直線上に開口部を設ける

例②円の一部を切り取る

例③流れをねじる

2階平面図

川辺の様子

1階平面図

遊ぶ庭の様子

田んぼの庭の様子

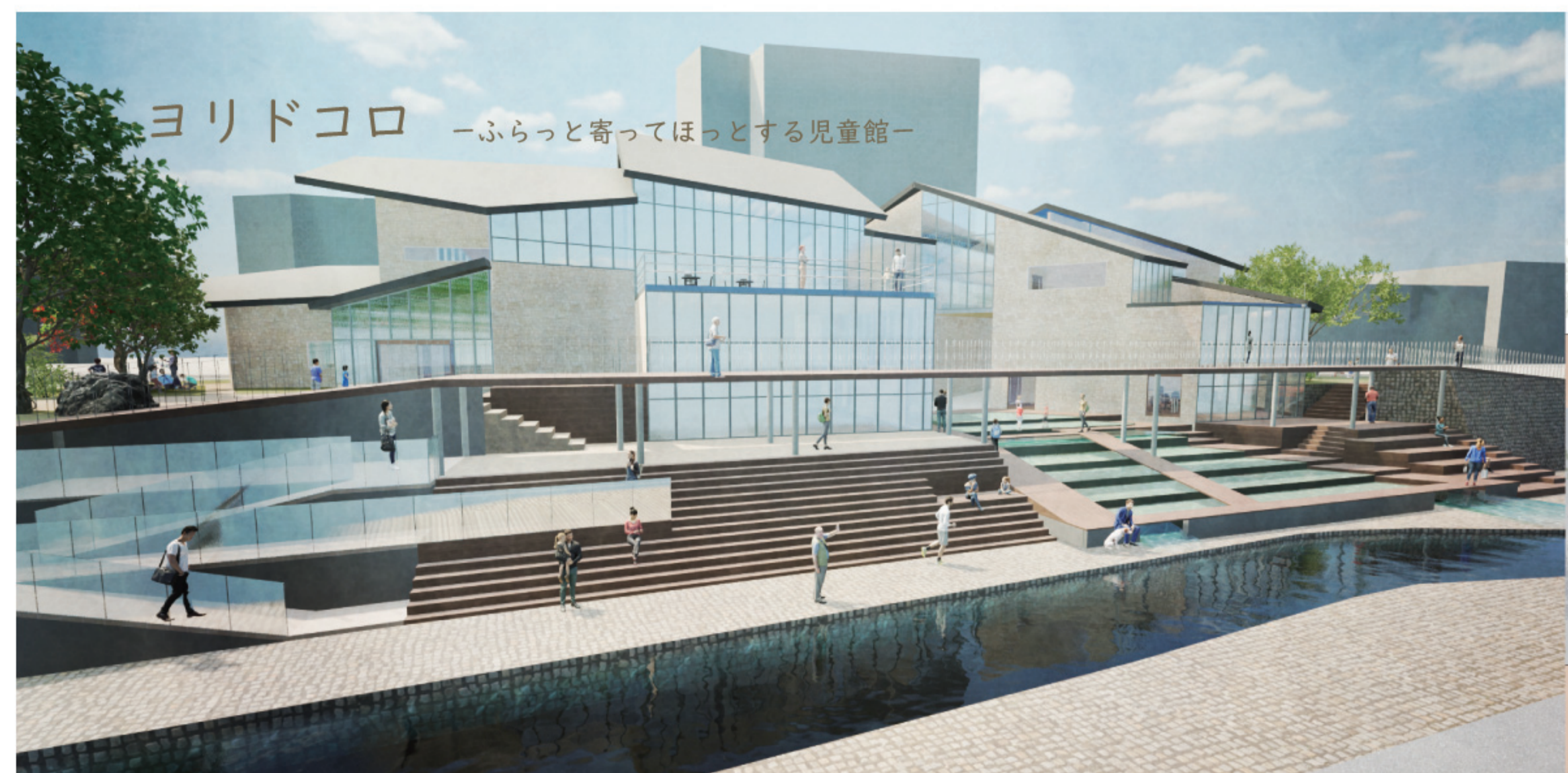
集まる庭の様子

A-A' 断面図

# ヨリドコロ -ふらっと寄ってほっとする児童館-

関川珠音

六甲山から流れる都賀川沿いには、四季や時間ごとに異なるさまざまな表情がある。この児童館は、地域の人々が安心して集い、交流し、子供たちがのびのびと成長できる場所を提供する。まちの人が何かのついでに寄り道ことができ、子供たちが安心して遊べる拠り所となる。



A-A' 断面図

B-B' 断面図

2階平面図

**I. コンセプト**

【子供と川のつながり】都賀川周辺を歩いてみると、多くの子どもたちが公園で遊んでいる一方、川遊びをする子供は少なかった。都賀川の歴史から敬遠されていると考えられる。そこで、子供たちが安心して遊べる水辺の空間を設けた。

【多世代交流】様々な世代の人々がちよっと寄り道してみよう、ちよっと休憩してみよう、気軽に立ち寄ることのできる場とすることで、子供以外にも訪れる場所となる。多世代が集まる空間では、予期せぬ交流が生まれる。

**II. プランダイアグラム**

①山手幹線と商店街を繋ぐ②ポリウムによって空間を配置③川やまちに向かって空間を開く

**III. ポリウムダイアグラム**

神戸の地形 海と山に挟まれた地形

六甲山の連なり 南からの眺望は山が連なり建物立ち並んでいる

南から北に向かって屋根をずらして配置

東西方向で屋根を流す

1階平面図兼配置図

2階平面図